

## 筑波法政叢書

# 熟議民主主義×科学技術×法学の共振と 相互連関：新研究領域のシーズ

Resonance and Mutual Association in Deliberative Democracy,  
Science Technology, and Law: Seeds of New Research Area

筑波大学令和3年度シーディングプログラム  
「科学技術と法学がもたらす熟議民主主義の実現に向けた  
熟議サポートシステムの基盤構築」  
研究成果報告書

編集代表

宮坂 渉

筑波法政学会

# 目次

まえがき (宮坂渉) .....	1
第1章 熟議民主主義、科学技術、法学：研究構想 (宮坂渉) .....	5
第2章 熟議は必要か？——熟慮的なロトクラシーの可能性—— (山口晃人) .....	28
第3章 デモクラシーに関する、種を播くための序論的考察 —本質的論争性と脱論争化、ブレナン『デモクラシーに反対する』、 熟議デモクラシー、哲学対話に簡単に触れながら (木山幸輔) .....	42
第4章 Online Deliberation Systems: Design, Current State and Future Directions (Simona Vasilache & Fabio Tanaka) .....	68
第5章 The Practice of Deliberative Democracy in Japanese Smart Cities: A Case Study of the Kakogawa Decidim (Hajime Akiyama) .....	78
第6章 熟議民主主義と安全保障—「普通の国」への道程を巡って (櫻田淳) .....	88
第7章 新しい捜査手法に対する規制について (守田智保子) .....	105
第8章 性的自由に対する罪の成否 —横浜地判平成27年11月13日 (LLI/DB : L07050621) — (蔡芸琦) .....	120
第9章 ハラスメント防止対策における「話し合い」の効用 (星野豊) .....	125
研究プログラム情報 (宮坂渉) .....	131
あとがき (宮坂渉) .....	135
著者一覧 .....	137

# Contents

Preface (Wataru Miyasaka) .....	1
Chapter 1 Deliberative Democracy, Science Technology, and Law : Research concepts (Wataru Miyasaka) .....	5
Chapter 2 Is ‘deliberation with’ necessary?: The potential of lottocracy with ‘deliberation within’ (Akito Yamaguchi) .....	28
Chapter 3 An Introductory Examination on Democracy: Essential Contestedness, Decontestation, Brennan’s Against Democracy, Deliberative Democracy, and Philosophical Dialogue (Kosuke Kiyama) .....	42
Chapter 4 Online Deliberation Systems: Design, Current State and Future Directions (Simona Vasilache & Fabio Tanaka) .....	68
Chapter 5 The Practice of Deliberative Democracy in Japanese Smart Cities: A Case Study of the Kakogawa Decidim (Hajime Akiyama) .....	78
Chapter 6 Democracy and security - A reflection on Japan politics under the trend toward THE NOMAL STATE (Jun Sakurada) .....	88
Chapter 7 Regulation of New Methods of Police Investigation (Chihoko Morita) .....	105
Chapter 8 Scope of quasi forcible indecency and quasi forced sexual intercourse (Yunchi Tsai) .....	120
Chapter 9 Benefits of "Discussion" in Harassment Prevention Measures (Yutaka Hoshino) .....	125
Information of the Research Program (Wataru Miyasaka) .....	131
Afterword (Wataru Miyasaka) .....	135
List of Authors .....	138

# 研究プログラム情報

研究代表者：宮坂 渉

研究プログラム名：「科学技術と法学がもたらす熟議民主主義の実現に向けた熟議サポートシステムの基盤構築」

研究期間：令和3年10月～令和4年3月

## 1. 研究実施体制

宮坂 渉（人文社会系・准教授）：研究全体の統括

竹中佳彦（人文社会系・教授）：研究全体の統括補佐

齋藤 愛（人文社会系 URA）：研究全体の補佐

リサーチグループ（RG）1：熟議民主主義の定義、意義、課題の検討

秋山 肇（人文社会系・助教）

平井悠介（人間系・准教授）

木山幸輔（人文社会系・助教）

リサーチグループ（RG）2：熟議サポートシステムの基盤技術の研究

ヴァシラケ・シモナ（システム情報系・助教）

宮坂 渉（兼務）

リサーチグループ（RG）3：科学技術と法倫理の問題の検討

星野 豊（人文社会系・准教授）

守田智保子（人文社会系・助教）

蔡 芸琦（人文社会系・助教）

## 2. 研究協力者

福島俊一氏（国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）、研究開発戦略センター（CRDS）、フェロー）

五所亜紀子氏（国立研究開発法人科学技術振興機構、研究開発戦略センター、企画運営室フェロー）

菅沢浩毅氏（化学製品 PL 相談センター・日本化学工業協会）

関本一樹氏（国立研究開発法人科学技術振興機構、「科学と社会」推進部、未来共創企画グループ主査）

山本理枝子氏（国立研究開発法人科学技術振興機構、研究開発戦略センター）

花田文子氏（国立研究開発法人科学技術振興機構、研究開発戦略センター）

Fabio Henrique Kiyoyiti dos Santos Tanaka（システム情報工学研究群、情報理工学位プログラム）

阿久澤ひかる（社会・国際学群社会学類法学主専攻）

穴見蒼野（社会・国際学群社会学類法学主専攻）

荒木田雪乃（社会・国際学群社会学類法学主専攻）

上原紗帆（社会・国際学群社会学類法学主専攻）

大山千聖（社会・国際学群社会学類法学主専攻）

## 3. 研究活動

### 3. 1 研究会

#### 3. 1. 1 全体研究会

第1回

2021年10月26日（火）

出席者：秋山、平井、木山、シモナ、星野、守田、蔡、宮坂

内 容：各 RG の研究方針の検討等

## 第2回

2021年12月19日（日）

出席者：平井、木山、シモナ、星野、守田、蔡、宮坂

内 容：シンポジウム、報告書の内容検討等

### 3. 1. 2 個別研究会

リサーチグループ（RG）1：

2021年9月14日（火）

出席者：平井、木山、秋山

内 容：熟議民主主義の定義、意義、課題及び熟議サポートシステムの基礎理論の検討

リサーチグループ（RG）2：

2021年9月28日（火）

出席者：シモナ、宮坂

内 容：オンライン・ミーティング・システムについての情報交換

2022年1月11日（火）

出席者：シモナ、宮坂、ファビオ・タナカ

内 容：オンライン・ミーティング・システムのデザインについての意見交換

リサーチグループ（RG）3：

2021年9月10日（金）

出席者：星野、守田、蔡

内 容：科学技術と法についての意見交換

2021年10月13日（水）

出席者：星野、守田、蔡

内 容：科学技術と法についての意見交換

2021年11月24日（水）

出席者：星野、守田、蔡

内 容：科学技術と法についての意見交換

2021年12月23日（木）

出席者：星野、守田、蔡

内 容：科学技術と法についての意見交換

2022年1月28日（金）

出席者：星野、守田、蔡

内 容：科学技術と法についての意見交換

### 3. 2 意見交換会

日 時：2021年9月16日（木）

場 所：オンライン（Zoom）

参加者：福島俊一氏、五所重紀子氏、山本理枝子氏、花田文子氏（JST CRDS）、関本一樹氏（JST）、秋山、齊藤、宮坂

内 容：「戦略プロポーザル 複雑社会における意思決定・合意形成を支える情報科学技術」と本研究についての意見交換

日 時：2021年10月11日（月）

場 所：オンライン（Zoom）

参加者：菅沢浩毅氏（化学製品 PL 相談センター・日本化学工業協会）、五所重紀子氏（JST CRDS）、関本一樹氏（JST）、秋山、齊藤、宮坂

内 容：リスクコミュニケーションの理論と実例についてのレクチャーと意見交換

### 3. 3 講演会

#### 第1回

日 時：2021年10月26日（火） 19：00～21：00

場 所：オンライン（Zoom）

講 師：山口晃人氏

講演題目：「熟議民主主義の現在」

講師所属：東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻（相関社会科学分野）博士課程

講師略歴：東京大学教養学部卒業、同大学院総合文化研究科国際社会科学専攻（相関社会科学分野）博士課程。専攻は政治哲学。論文に「ロトクラシー 籤に基づく代表制民主主義の検討」（『政治思想研究 第20号』）など

#### 第2回

日 時：2021年12月19日（日） 14：00～16：00

場 所：オンライン（Teams）

講 師：櫻田淳氏

講演題目：「熟議民主主義と安全保障—「普通の国」への道程を巡って」

講師所属：東洋学園大学現代経営学部教授

講師略歴：東京大学大学院法学政治学研究科博士前期課程修了。愛知和男衆議院議員の政策担当秘書等を経て、2007年4月東洋学園大学現代経営学部准教授に就任、2011年4月より現職。専攻は国際政治、安全保障。近時の論稿として、「『ジョー・バイデンの米国』と日本の戦略環境」『海外事情』（拓殖大学海外事情研究所、2021年1-2月号）、「『文明』と日本外交」『海外事情』（拓殖大学海外事情研究所、2019年5-6月号）、「『文明』と国際政治の諸相」『海外事情』（拓殖大学海外事情研究所、2017年11月号）がある。

#### 第3回

日 時：2022年2月9日（水） 19：00～21：00

場 所：オンライン（Zoom）

講 師：山田陽氏

講演題目：「熟議民主主義の政治理論について」

講師所属：神奈川大学非常勤講師

講師略歴：青山学院大学国際政治経済学部卒業、東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻（相関社会科学分野）博士課程単位取得満期退学。専攻は政治哲学・政治思想。共著に『実践する政治哲学』ナカニシヤ出版、『ポスト代表制の政治学：デモクラシーの危機に抗して』ナカニシヤ出版、

『つながるつなげる日本政治』弘文堂他多数。論文に「熟議民主主義と公共圏」(『**相関社会科学**』19号)「熟議民主主義と多元主義：コンセンサスと多元主義の理念的対立をめぐって」(『**政治思想研究**』11号)他多数

### 3. 4 シンポジウム

「科学技術と法学がもたらす熟議民主主義の実現—新しい法学の創成に向けて」

日 時：2022年3月19日(土) 13:00~16:00

場 所：オンライン (Zoom)

日英同時通訳付き

開会挨拶：関根久雄 (筑波大学人文社会系長)

基調講演：山口富子氏 (国際基督教大学教養学部 アーツ・サイエンス学科教授)「社会における先端科学技術のあり方」

事例紹介：関本一樹氏 (科学技術振興機構 (JST)「科学と社会」推進部)「科学と社会をつなぐ—対話と未来社会デザイン」

研究報告：

宮坂 渉「熟議民主主義と科学技術：研究構想発表」

ヴァシラケ・シモナ「Online deliberation systems: principles and practical considerations」

平井悠介「熟議民主主義の実質化におけるテクノロジーの位置」

星野 豊「法律問題に熟議は有効か」

パネル・ディスカッション (登壇者全員)：「科学技術で熟議民主主義は実現できるのか？ 望ましいのか？」

基調報告者ならびに事例紹介者略歴

山口富子氏

バース大学社会科学科開発学修士、ミシガン州立大学社会学部博士課程修了(社会学)。専門は社会学、科学技術社会論、著書『萌芽科学技術・先端科学技術への社会学的アプローチ』(共著)京都大学学術出版会、『科学技術社会論の挑戦 「つなぐ」「こえる」「動く」の方法論』(共著)東京大学出版会、『予測がつくる社会「科学の言葉」の使われ方』(共編者)など。

関本一樹氏

JST(科学技術振興機構)「科学と社会」推進部未来共創企画グループ主査。東洋大学国際地域学部卒。都内の商工会議所勤務を経て、2015年10月にJST入職。産学連携部門を経て2017年11月から現職。「サイエンスポータル」などの情報発信業務の後、現在は科学と社会をつなぐ“対話の場”づくりに従事。北海道大学高等教育推進機構オープンエデュケーションセンター科学技術コミュニケーション教育研究部門(CoSTEP)16期(2020年度)修了生。

## 著者一覧

宮坂 渉 (第1章) 筑波大学人文社会系准教授

山口 晃人 (第2章) 東京大学大学院総合文化研究科博士課程

木山 幸輔 (第3章) 筑波大学人文社会系助教

シモナ・ヴァシラケ (第4章) 筑波大学システム情報系情報工学域助教

ファビオ・タナカ (第4章) 筑波大学理工情報生命学術院システム情報工学研究群

秋山 肇 (第5章) 筑波大学人文社会系助教

櫻田 淳 (第6章) 東洋学園大学教授

守田智保子 (第7章) 筑波大学人文社会系助教

蔡 芸琦 (第8章) 筑波大学人文社会系助教

星野 豊 (第9章) 筑波大学人文社会系准教授

## List of Authors

Wataru Miyasaka (Chapter 1) Associate Professor, Faculty of Humanities and Social Sciences, University of Tsukuba

Akito Yamagichi (Chapter 2) Doctoral Program, Graduate School of Arts and Sciences, University of Tokyo

Kosuke Kiyama (Chapter 3) Assistant Professor, Faculty of Humanities and Social Sciences, University of Tsukuba

Simona Vasilache (Chapter 4) Assistant Professor, Faculty of Engineering, Information and Systems, University of Tsukuba

Fabio Tanaka (Chapter 4) Graduate School of Science and Technology, University of Tsukuba

Hajime Akiyama (Chapter 5) Assistant Professor, Faculty of Humanities and Social Sciences, University of Tsukuba

Jun Sakurada (Chapter 6) Professor, Toyo Gakuen University

Chihoko Morita (Chapter 7) Assistant Professor, Faculty of Humanities and Social Sciences, University of Tsukuba

Yunchi Tsai (Chapter 8) Assistant Professor, Faculty of Humanities and Social Sciences, University of Tsukuba

Yutaka Hoshino (Chapter 9) Associate Professor, Faculty of Humanities and Social Sciences, University of Tsukuba

【編集代表略歴】

宮坂 渉（みやさか・わたる）

早稲田大学大学院法学研究科単位取得満期退学。現在、筑波大学人文社会系准教授。専門はローマ法。主要共著書として、津野義堂編著『オントロジー法学』中央大学出版会、2017年、第3章「usucapio pro suo のオントロジー」。主要訳書として、エイドリアン・ゴールズワーシー著『カエサル』上・下、白水社、2012年。

筑波法政叢書（筑波法政別冊）第3号

Special Series on Tsukuba Journal of Law & Politics, Volume 3.

熟議民主主義×科学技術×法学の共振と相互連関：新研究領域のシーズ

Resonance and Mutual Association in Deliberative Democracy,

Science Technology, and Law: Seeds of New Research Area

発行 令和4年（2022年）3月25日

編集代表 宮坂 渉

MIYASAKA, Wataru

編集者 筑波法政学会

発行者 筑波法政学会

The Tsukuba Society of Law & Politics,

The University of Tsukuba, Japan

〒305-8571 茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学人文社会系内

電話（029）853-4057（筑波法政編集委員会）

印刷者 株式会社 イセブ

〒305-0005 茨城県つくば市天久保2-11-20, printed in Japan.